

平成31年度全国学力・学習状況調査及び佐賀県学習状況調査結果について

平成31年度 小城市立砥川小学校

全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析することによって教育の改善を図るという目的で、4月18日（木）に文部科学省による『学力・学習状況調査（国語、算数、意識調査）』を実施しました。実施対象は、小学校では6年生です。また、同日『佐賀県学習状況調査』が行われました。この佐賀県学習状況調査では、5年生の国語・算数・意識調査を実施いたしました。

また、本校では、その結果を踏まえ、今後の授業や教育活動の改善に生かしていきたいと思えます。

尚、本調査の結果はあくまでも児童の学力の一部を表したものに過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの学力向上を目指していきます。

全国学力・学習状況調査について（文部科学省より）

■ 調査の趣旨

- 全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することのより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 各教育委員会、学校等が全国的な状況と関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図り、併せて児童一人ひとりの学習改善や学習意欲の向上につなげる。

■ 調査の目的

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

■ 調査の内容

- 教科に関する調査（国語、算数）
 - ・平成31年度（令和元年度）から「知識」と「活用」を一体的に問う問題形式で実施。
- 生活習慣や学校環境に関する質問紙調査
 - ・児童生徒に対する調査
 - ・学校に対する調査

全体の概要

おおむね達成の項目は、「書く」のみであった。要努力の項目が多く、その中でも「読む」が県平均に比べ大きく下回っている。
「知識・理解・技能」はおおむね達成しているが、語句に関する知識が乏しい。

○・・・成果 ●・・・課題

☆学校や家庭学習での取り組み

	分析結果・自校の課題	改善に向けた具体的取り組み
話すこと・聞くこと	<p>○分からない点や確かめたい点を質問することはおおむねできている。</p> <p>●自分が考える理由を、設問の条件に合わせて記述することができていない。</p>	<p>☆話し合い活動をする際に、聞くポイント（共通点・相違点などの比較、疑問点など）、話すポイント（自分の立場・考え・理由、他の人の意見を取り入れるなど）を確認しながら取り組ませる。</p>
書くこと	<p>○新聞についての学習はこれまでの積み重ねがあり、見出しをつける活動はできていた。</p> <p>●おおむね達成しているが、県平均を下回っているのは、「内容と資料を結び付けて考える」こと、「明確にするために、理由や事例を挙げて書く」こと、「条件に合った文章を書く」ことであった。</p>	<p>☆「文に合った資料を選ぶ」課題、「二文で書く」「この言葉を入れて書く」などの条件を入れた作文課題等に取り組む。</p>
読むこと	<p>○説明的文章に書かれている事実を捉えることができている児童は多い。</p> <p>●事実と意見を区別して読むことができていない。題意を読み取れていない可能性もあり、無解答率が高くなっている。</p> <p>●文学的文章では、全体的に正答率が低い。叙述をもとに登場人物の行動や気持ち、気持ちの変化を捉えることができていない。問題に取り組む時間が足りなかったことも一因と考えられる。</p>	<p>☆短めの説明的文章を読み、事実と筆者の意見の違いについて理解を深める活動を取り入れる。</p> <p>☆物語の展開や人物の気持ちの変化を読み取る際に、必ず本文から根拠を見つけさせる。</p>
言語事項	<p>○漢字の「へん」を選ぶ問題はほぼ全員できていた。</p> <p>●語彙力が乏しかったり、熟語の意味、漢字が持つ意味を理解できていなかったりするため、「書き」の正答率が低い。</p> <p>●主語述語の関係をしっかり理解できていない。</p> <p>●ローマ字の「書き」がほぼできていない。「読み」の理解もやや低い。</p>	<p>☆語彙力を高めるため、使う言葉を指定して文を書く活動を取り入れる。意味が分からない場合は、辞書を引く習慣をつける。</p> <p>☆漢字の「書き」については、当該漢字を使った熟語をたくさん見つけさせるなど、学習方法を工夫させる。</p> <p>☆ローマ字については、教室内の様々な場所にローマ字を使った表記を掲示し、目に見える機会を増やす。また、児童用パソコンなどを用いて習熟を図る。</p>

全体の概要

全体的に見て、「知識・理解」は県とほぼ同じだが、「考え方」と「技能」は下回っている。領域別では、数と計算や図形では県とほぼ同じだが、量と測定や数量関係は下回っている。到達度分布をみると要努力の児童の割合が県の平均を大きく上回っている。学級の半数が要努力の群に入っているので、指導方法の工夫が必要と考える。

○・・・成果 ●・・・課題

分析結果・自校の課題	
数量や図形の知識・理解	<p>○全体的に県とほぼ同じだが、重さの単位換算は県を上回っている。座標に関する問題も上回っている。</p> <p>●図形の半径と答える問題は県より低く、円に関する知識に課題がある。郵便はがきの面積の問題も低く、生活の中で目にする物の面積についてのおよその感覚が身についていない。</p>
数量や図形についての技能	<p>○小数の計算やグラフの見方は県を上回っている。</p> <p>●180度より大きい角度を測ったり、直方体の見取り図を描く問題は、県平均をやや下回っている。</p>
数学的な考え方	<p>○図形の組み合わせの問題や、時間の計算は県平均を上回っている。</p> <p>●長方形を組み合わせた図形の面積を計算する問題や答えを文章で記述する問題は県を下回っている。</p>

☆学校や家庭学習での取り組み

改善に向けた具体的取り組み
<p>☆学習して時間が過ぎると学んだことを忘れていくので、月や学期ごとに算数タイムや家庭学習で振り返りの学習を行う。</p> <p>☆身の回りの面積や体積の感覚を日常生活と関連つけて意識させながら学習に取り入れる。</p>
<p>☆継続して、家庭学習や算数タイムなどで、さらなるスキルアップを図る。 「継続は力なり！！」</p> <p>☆どんな問題にも対応できるよう、算数タイムや家庭学習の中で類似問題、応用問題に取り組める機会を増やす。</p> <p>☆授業で学んだ内容をその日の宿題にすることで、技能の定着を図る。</p>
<p>☆算数科だけでなく他教科でも、自力解決→交流活動→適応問題→ふりかえりの学習過程を積み重ねていくことで、内容の理解につなげていく。その時に、どのように考えたかを文章や図などに書かせ、説明をする活動も積極的に取り入れる。</p> <p>☆学習活動全般において、長文や情報過多の中から必要な部分を取り出すことなども含め、問題文をていねいに「読み取る」ことを習慣化する。</p>

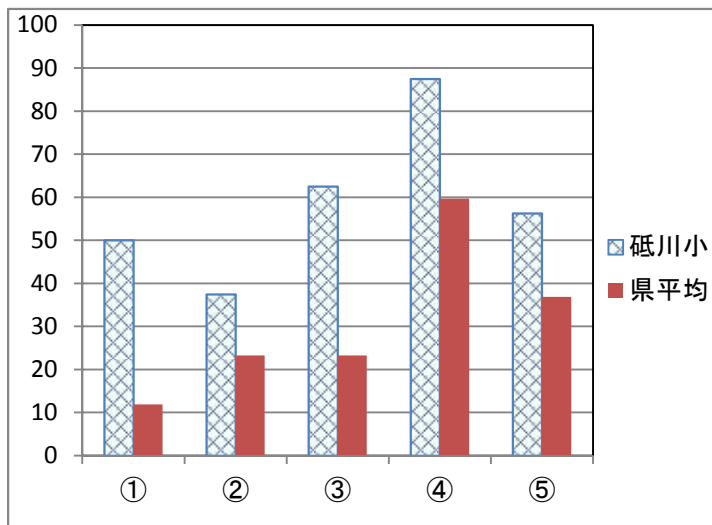


◆生活習慣に関する「質問紙(意識)調査」から 《5年生》

小城市立砥川小学校

【数値が特に高かった項目】

	調査項目
①	昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館へどれくらい行きますか
②	普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、ゲームをしますか
③	国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫している
④	理科の授業の内容がよく分かる。
⑤	友達と話し合うとき、友達の考えを受け止めて、自分の考えを持つことができていると思う

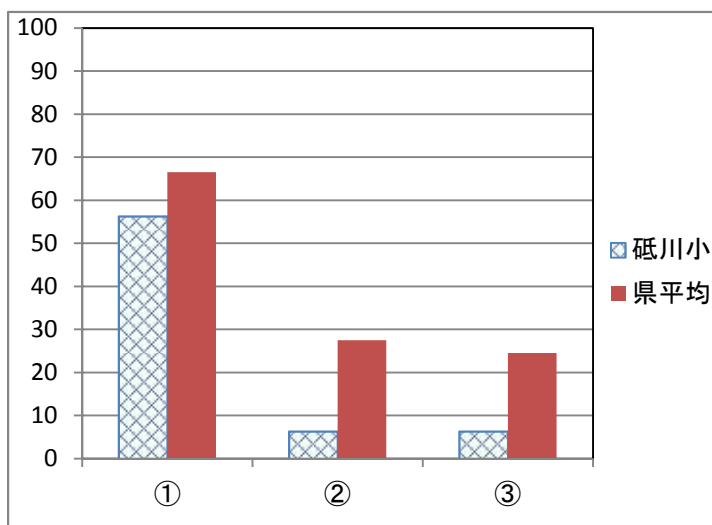


* 分析と取り組み

- ・学校生活も家庭生活も安定しており、自己肯定感が高く自信にも繋がっているため、ほとんどの項目で、県の数値を上回っているようだ。
- ・学校で奨励しているので図書の利用は多く、読書の習慣はついてきている。(①)
- ・携帯電話やスマートフォンを所持している児童が少ないこともあり、県に比べるとゲームの時間が少なくなっている。(②)
- ・自分の考えを持ち、話の組み立て方を工夫している児童が多く、話し合い活動に生かすことができている。(③⑤)
- ・教科では理科に興味を持って取り組む児童が多く、理解も深まっている。(④)

【数値が特に低かった項目】

	調査項目
①	自分で計画を立てて勉強をしている児童の割合
②	新聞やテレビ、インターネットのニュースをよく読んだり見たりしている児童の割合
③	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たり2時間以上勉強しているという児童の割合



* 分析と取り組み

- ・自分で計画を立てて勉強している児童は半数程度で県平均を下回っている。土日は全く勉強しない児童も数名おり、県に比べ、長時間勉強している割合は少ない。ドリル的な学習課題だけでなく、自主学習の取り組みを紹介することで、勉強時間を確保できるよう家庭と連携したりするなど、自分で計画を立て、能動的に学習に取り組む児童を増やしていく。(①③)
- ・好きな番組はよく視聴するようだが、ニュースに目を向ける児童は県に比べ少ない。学校では、学習に新聞作りを取り組ませたり、子ども新聞を紹介したりすることで視野を広げていきたい。(②)

テスト結果

全体の概要

・今回のテストを領域別に分析すると、「読むこと」「言語事項」は県平均とほぼ同じである。
 ・「話すこと・聞くこと」「書くこと」については県平均を下回っていて、問題内容を分析すると、問題が長文であったり余分な内容があったりして、根気よく丁寧に読み取る必要がある問題である。こういった傾向を持つ問題の正答率が低かった。
 ・問題形式については、記述式の正答率が低く、選択式については、問題文を分析的に読み、内容を正確に理解しないと回答できない問題の正答率は低く、全体を概観して解答する問題の正答率は県平均とほぼ同じである。
 ・通常のテストは問題文が上半分に、解答欄が下半分になっているが、今回のテストは、解答欄がページの後ろにあり、解答欄と問題文を行き来しながら解いていく形式である。こういった形式のテストにも慣れる必要がある。

○・・成果 ●・・課題

	分析結果・自校の課題
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ●話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って、自分の理解を確認するための質問をする問題では、全国平均正答率を大きく下回っている。 ●目的に応じて、質問を工夫する問題では、全国平均正答率をやや下回っている。 ●話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる問題では、全国平均正答率をやや下回っている。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ●図表やグラフなどを用いた目的を捉える問題では、全国平均正答率を大きく下回っている。 ●情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉える問題では、全国平均正答率をやや下回っている。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ○目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読む問題では、全国平均正答率を大きく上回っている。 ○目的に応じて文章の内容を的確に押さえる問題は2問あり、1問は全国平均正答率をやや上回っていて、もう1問は全国平均正答率をやや下回っている。
言語事項	<ul style="list-style-type: none"> ○学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題では、県の平均正答率を大きく上回っている。 ●日常生活で使われている慣用句の意味を理解し、使う問題では、全国平均正答率を大きく下回っている。 ●文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く問題では、県の平均正答率をやや下回っている。

☆学校や家庭学習での取り組み

	改善に向けた具体的取り組み
	<ul style="list-style-type: none"> ☆話し手、聞き手、支え手に分かれた話し合い活動を多くの教科で取り入れ、全員に司会やコーディネーターの役割を経験させる。 ☆朝の会や帰りの会で、スピーチ活動を取り入れ、内容について「おたずね」することで、しっかり聞く習慣をつける。 ☆家庭で1日の出来事を家族に話す習慣をつける。
	<ul style="list-style-type: none"> ☆条件を与えて書かせる短作文に取り組みさせる。 ・理由や根拠を明らかにさせて書く。 ・経験や体験を取り入れて書く。 ・「なりきり作文」等想像した文を書かせる。 ・字数制限をいれた文を書かせる。 ・使う言葉、使ってはいけない言葉を指定し書かせるなど ☆目的に応じた文章を書かせることや内容を整理しながら意図した文章が書けるような指導を取り入れていく。
	<ul style="list-style-type: none"> ☆目的に応じて資料を選び、必要な情報を捉える経験を多くの教科、領域で取り入れていく。 ☆文章を読み取るときには、文中に自分なりに大事だと思う文や言葉に、サイドラインを引いたり、印をつけるなどの読み取る技を身につけさせる。 ☆丁寧に音読をすることで、書かれている言葉を語彙として習得させる。 ☆読書の質を変える。量も必要だが、書かれている内容を丁寧に読む習慣や同じ本を何度も読み直す習慣をつけることで、書かれている内容や言葉に鋭く反応させる。
	<ul style="list-style-type: none"> ☆漢字学習の徹底 ・単なる漢字習得ではなく、文脈の中で使わせる。 ・普段から漢字に親しめるような環境を作っておく。(教室内にコーナーを作っておくなど) ・前学年で習った漢字の復習を取り入れる。 ☆ノートを丁寧に書く指導。(正しい字の知識活用) ☆「ことわざ・慣用句・四字熟語・故事成語」などの言葉の学習に加え、短文作りに取り組む。



テストの結果

全体の概要

- ・4領域の中では「数と計算」を得意としている児童が多い。
- ・試験後半の問題も無解答率は少なく、また、後半の正答率についても下がっていなかったの
で、最後までしっかり取り組んでいたと思われる。
- ・「図形」「量と測定」が県の正答率より大きく下回っていた。
- ・活用の結果を県の正答率と比べると、7割ほどの問題では平均正答率がほぼ同じであった。
基本問題に比べて、無解答率の割合が低い。このことから、記述式に抵抗を感じている児童は
少ないことがわかる。

○・・・成果 ●・・・課題

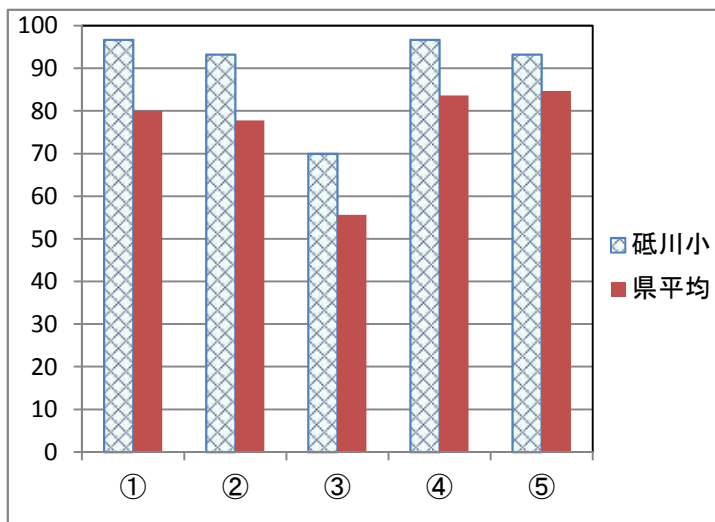
分析結果・自校の課題		☆学校や家庭学習での取り組み 改善に向けた具体的取り組み
数量 や 図形 の 知識 ・ 理 解	○観点別正答率の中で一番正答率が高かった。示された除法の公式の意味についてを問う問題については正答率が50を切っていたが、県や全国の正答率よりも高かった。	☆児童の得意分野、苦手分野を把握する。 その上で、朝の学習タイムを使いながら、復習を行う。 ☆自主学習ノートにテーマを設け、自分の苦手な分野の復習を行うようにする。
数量 や 図形 に つ い て の 技 能	○棒グラフを読みとり計算することはできていた。 ●図形を操作し考える問題では、県や全国の正答率に比べて、大きく下回っていた。問題にある「すべて選んで」という言葉に対して、一つのみ選んでいたのではないかと考えられる。→問題を最後まで読む力 ●分配法則や交換法則の計算のきまりを守って計算する問題では、県や全国の正答率に比べ、やや下回っていた。	☆家庭学習において、理解が進んでいない単元(計算の順序など)や学習内容によって前学年の内容まで含めた復習問題に取り組ませる。 ☆授業中に、図を書く習慣をつけることで、問題のイメージ化を図る。
数学 的 な 考 え 方	○無解答率がそこまで低くないため、記述への抵抗感は少ないと考えられる。 ●文章量や資料が多いと、正答率が低くなっている。 ●計算の順序(結合分配の法則)を考慮して解く問題では、正答率が県や全国に比べかなり下回っていた。	☆文章量や資料が多いような問題に取り組ませる。 ☆機会を設け、解き方を確認する。(線を引く、図を書くなど) ☆学習問題に取り組むときに、自分の考えを記述したり、友達に説明したりする交流活動を仕組む。

◆生活習慣に関する「質問紙(意識)調査」から《6年生》

小城市立砥川小学校

【数値が特に高かった項目】

	調査項目
①	将来の夢や目標を持っている児童の割合。
②	読書は好きと答えた児童の割合。
③	5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をよく使っていると答えた児童の割合。
④	国語の授業で学習したことを、普段の生活の中で、話したり、聞いたり、書いたり、読んだりするときに活用しようとしていると答えた児童の割合。
⑤	学校に行くのは楽しいと答えた児童の割合。

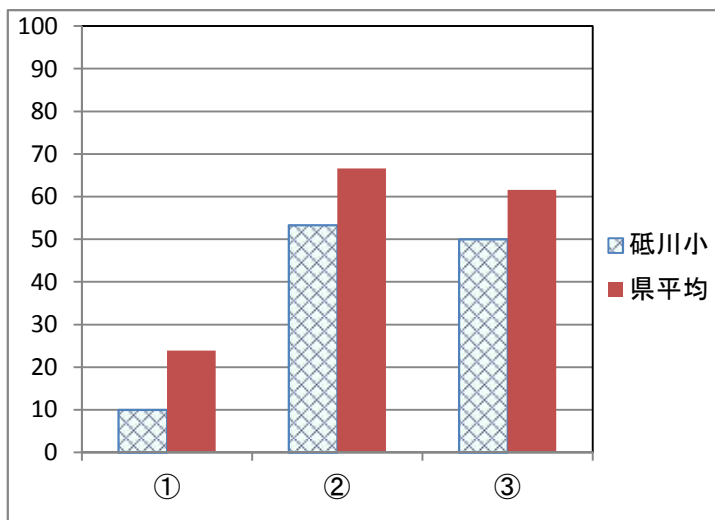


*分析と取り組み

- ・総合的な学習の時間に、キャリア教育に取り組んできたことで、児童が将来の目標を持つことにつながっていると思われる。(①)
- ・授業等で図書館を活用する機会が多く、本に親しむ時間が多い。(②)
- ・普段の授業でICT機器を活用する機会が多く、慣れ親しんでいると思われる。(③)
- ・単元の終わりで様々なまとめ方の繰り返し学習してきた成果が出ているのではないかとと思われる。(④)
- ・行事を通しての役割や心のアンケートやQUを活用した子どもたちに寄り添った指導がなされていると考えられる。(⑤)

【数値が特に低かった項目】

	調査項目
①	学校の授業時間以外に、普段、1日当たり2時間以上学習をしているという児童の割合。
②	算数の勉強は好きと答えた児童の割合。
③	5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思うと答えた児童の割合。



*分析と取り組み

- ・宿題のみで家庭学習を終わらせていると推測される。3時間以上の割合を増やすために、宿題の量を増やしたり、自主学習の質を高めたりする手立てが必要である。(①)
- ・少人数学習の形態を取り入れ、一人一人によりきめ細やかな指導をしていく必要がある。(②)
- ・自分の考えにあった資料を選択したり、発表内容を推敲したりする機会を増やす手立てが必要。(③)